

死からの生還

JATFT

RETRUN FROM DEATH

死からの生還

David Hanson, DEH, TFTdx

デイビッド・ハンソン

私はデイビッド・ハンソン。私は、ロジャー・キャラハン博士とTFT(Thought Field Therapy)がなかったら、生きてはいなかっただろうと真剣に思っています。私のTFTの体験の真相、そして生き生きとした健康状態をどのように回復したかをここで伝えます。ここに書かれていることは、検証でき、信頼できる証拠があり、すべての事実の妥当性を証明できるものです。

私は、2002年5月パームスプリングスのTFT診断レベル・トレーニングで、ロジャー・キャラハン博士に出会いました。しかし、私の話はここからが初めではありません。このような時には、いつも初めからお話しした方がいいものです。さて、そうしましょう。

1990年、私はHIV感染者と診断されました。1995年、検査で私のT細胞（T細胞は、ウィルスや感染体に対して戦ってくれるリンパ球である）数は、たった30まで落ちました。正常な人では800から1100くらいあります。私のはたった30です！とても少ない。それら全てに名前を付けられると思いました！私はひどい抑うつになり、言葉でのセラピーでは問題を軽減することはできませんでした。

1997年、主治医が有名なエイズ「カクテル」（ウィルスの進行を止めるような不快な化学物質の合成）が施しました。この厳しい試練を通して、私は、「支払う価値(price paying)」の無慈悲な世の中の法則を学びました。すなわち、すべてに価値があるということです。三途の川を渡る旅を避けるために払った代価には、多くの面があったのです。

エイズ薬のよく知られている副作用のすべてに襲われました。吐き気と嘔吐、慢性疲労、日常的な下痢と深刻な胃痛、コレステロールと動脈プラークの激増、そして「リポジストロフィー」と呼ばれるもの。おしゃれな言葉ですが、これは、奇妙な方法で、脂肪を体の中にまき散らしていくものです。

私の体は、すぐに「カクテル」を軽蔑し、強烈な吐き気なしには毎日2回も行えないのだと学びました。

たった一つかからなかったのが、衰弱症候群です。代わりに、正反対のことを体験しました。恐ろしい勢いで体重が増えていったのです。友人たちは、冗談で笑いながら「ARF」(AIDS Related Fat: エイズ関連肥満)と呼んでいました。私の体重はすぐに145キロ(320ポンド)まで増えました。172センチ(5フィート8インチ)の身長では非常に悪い状態です。

病気で疲労していて太っていて、片足を棺桶に突っ込み、片足はバナナの皮の上。その上、雨が降っているときたもんだ！

しばらく、私はレイキという日本のエネルギー・ヒーリングの一つに興味を持ちました。レイキの生徒として、体が直面するほとんどの病気は、気(体の生命力エネルギー)の流れがうまく流れていないことによると学びました。日常のセルフケアによるレイキ治療と医療「カクテル」で、私のT細胞は増え始め、検査では私の体重と同じくらい数の320まで増えたのです。

2001年感謝祭の前週の話に戻ります。エイズ薬トリゾジストロフィーで、狭心症を起こすほどコレステロールと動脈プラークが急増しました。私の心臓専門医は、血管形成術とステント移植が必要だと判断しました。血管形成術は、ブロックしている冠動脈を開くもので、ステントは動脈を開通したままにしておき、血管の回復と心臓への流れを助けます。私は感謝祭の前にこの施術を3日間行い、その翌日にちょうど退院できたのです。その次の火曜日の朝、カフェインレス・コーヒーをすすりながら、トーストを食べていた時に、胸に今まで感じたことのないほどの痛みを受けました。心臓発作です。

救急隊が道を隔てた消防署から駆け付けて、救急車に乗せて心臓ケアセンターに連れて行ってくれたそうですが、あまり覚えていません。私は救急車の中で死んでいたのです。救急隊は、私の心臓を再生させてくれましたが、9日間も入院が必要なほど発作は深刻だったのです。

2001年12月から2002年5月の間、エイズ薬を続けましたが、ひどい副作用がまだあり、回復が遅いことに気付きました。とても遅かったのです。

読むのに疲れましたか？ここで止めないでください。ここから話は明るくなりますから、続きを読んでください。

2001年5月、私はスザンヌ・コノリーのアルゴリズム・トレーニングを受けました。これが、初めて奇跡的なTFTに出会ったときです。一人の女性(私のレイキの生徒の一人)は、とても高所が怖く、椅子の上に立つことを考えるだけで、汗だくになってしまうほどでした。適切なアルゴリズムを行った後に、彼女は椅子の上だけでなく、机の上にも、まったくためらいもなく、立てたのです。彼女の高所恐怖がなくなりました。私は何か大きなものに遭遇できた気がしました。

私は、可能な人すべてにTFTを使い始め、Bob Bray（※TFT診断レベルの博士）は私を「ためらいのないタッパー=タッピングする人（shameless tapper）」と呼びました。効果的で誰にでも使いたくなるテクニックというだけでなく、楽しめました。TFTをレイキ患者、近所の人、友人、家族、生徒、誰にでも使ったのです。

TFTの成長は著しかったが、私の健康はそうではありませんでした。2002年5月までに、胸の痛みを再び感じ、主治医は4重バイパス手術(quad bypass surgery)を勧め、私のT細胞は420あたりを頑張っていました。私は、安定化に効くだろうとレイキ治療を継続していたが、進歩はなく、私の体重はもっと悪くなっていました。私はまだ病気で、疲労していて、太っていて、ポケットにはいつもニトロ錠剤がありました。

胸の痛みがあったものの、私は、レイキ・マスターのSharron KanterとMichael Grossと共に、TFT診断のトレーニングを受けることを決め、2002年5月、シアトルからパームスプリングスに飛びました。パームスプリングスは、シアトルよりもっと暑く、摂氏38度（華氏100度）を超えていました。エイズ薬で私は胃痛を患い、飛行機を降りて砂漠の暑さの中で、すぐに胸が痛み始めました。その週末で、私は1ダースのニトロ錠剤を服用しました。通常、3つ目のニトロが必要な時には、病院に行けと言うのに。しかし、私は頑固だったのです。私はトレーニング中に副作用の下痢に何度も襲われ席を外したことを覚えています。

トレーニング一日目で、私はすぐにクラスの「プロジェクト」となりました。私のHRV(SDNN)は、ただならぬ6だったのです。クラスで、HRVが低いほど、死の可能性が高くなると学んだばかりだったので、これは尋常ではないという話になったわけです。私の同僚たちも驚きを隠せず、キャラハン博士もとても低いスコアに不安を隠すのが大変でした。博士とボブ(Bob Bray)は、親切にも廊下に私を誘って診断で迅速に対応してくれました。

20分ほどの診断で、エイズ薬がトキシンであるとわかったことに驚きはしませんでした。薬はキャラハン博士による7秒トリートメントで治療され、吐き気や下痢にも焦点を当てました。胸の痛みをターゲットに行い、腹痛も行いました。HRVを再度測ってみると8ポイントいくらか少しだけ改善していました。多くはないが、改善はありました。その時は、その日が自分の人生でいかに重要であったか、まだ気付いていませんでした。

翌日、前日の成功を蓄積するためにワークしました。しかし、一つ重要なことが違っていました。翌朝、いつもは下痢や腹痛で目覚めるのに、それが無く、朝の投薬も吐き気なしに飲みました。朝のTFT治療の後、私のHRVは改善しました。私たちは4日間のトレーニングの間継続して行い、HRVをとうとう18まで（300%の改善）上げたのです。私の自律神経のバランスは以前故障中でしたが、診断トレーニングが私にとって人生の転機になったことを考えれば、問題ではありません。

それ以来、薬の副作用に伴う強烈な吐き気、腹痛、疲労には全く悩まされなくなりました。

自分にとってトキシンである食べ物を見つけ、その情報に応じて食生活を変えてみました。2002年5月から私はトータルで**30kg**の体重と**25cm**のウェスト回りを、空腹感も抑うつもなしに減らすことができました。実際、私は、毎週、TFTの体重減少プログラムを始めて、食べ物の依存のある他人を援助することができたのです。

10月にHRVを再測定したところ、**SDNN**は元気な**87.3**まで改善されており、私の自律神経はほとんど完璧でした。

私の**T細胞**は、奇跡的に**690**を超え、ウィルス量は、検知できないレベルまで落ちました。この点から、私のエイズは完全な休止状態となり、主治医は私のコレステロールが完全に健康的なレベルまで落ちたことを確認しました。

キャラハン博士とTFTのおかげで、私はどんどん健康になっていきました。私の人生が戻ってきたのです。この話の一番いいところをまだ書いていないのは、翌週の火曜日には、私は新しいフルタイムの仕事を始めていたのです。私は、Puget Soundの最も大きな葬儀場で、愛する者を亡くした家族に関わるカウンセラーとして働き始めました。

私の新しい使命は、グリーフ（悲しみ）・カウンセリング・コミュニティを通じて、TFTを広げていくことです。

私がすでに言った通り、TFTがなければ私は今日生きてはいなかったということが頭にあることは疑いもしません。この機会を使わせていただき、ロジャーの援助に感謝の気持ちを表したいと思います。私の心の中に感じる感謝の気持ちは言葉では言い表せません。ただ、あなたへのご恩は永遠です。

デイビッド・ハンソン David Hanson, DEH, TFTdx

2003年8月15日における状況：最新の医療報告では、T細胞の数（免疫システム）は、903。ウィルス量はなし。これらの状態が6か月続けば、主治医は、デイビッドに「エイズがない」と判断できると伝えた。
